

参加者からの声



SHMS* ALMT&直需営業部長 金光赫 (左)
SEPH* 副総経理&HR Mgr. 吳華銘 (右)

中華圏における知名度アップに
エリアコミッティ独自の活動で
貢献していきます

私たちは別々の販売会社で営業を担当しています。中華圏における住友電工グループとしての成長に貢献できることを嬉しく思っています。

現在私たちはともにPR委員会として活動をしています。2016年12月の中華圏主管者会議で、アクションラーニングの一テーマとして中華圏における当社グループのブランディング向上を取りあげました。それが翌年からエリアコミッティの一つ、PR委員会へと発展したのです。

中華圏ではBtoBビジネスに身を置く当社グループは知名度が

低く、かつグループ会社に広報機能をもつ会社がありません。営業担当の私たちがそのままPR委員会のメンバーとして活動を期待されたことには少し驚きましたが、今回の主管者会議では2年分の成果として、中国で広く普及しているSNS[WeChat]に当社グループの公式アカウントをゼロから立ち上げ、当社グループの紹介動画を公表するなどを行い、5万人以上のフォロワーを持つまでに成長させたことを報告しました。このようなSNSを活用する手法はエリアコミッティとしての活動だからこそできる取り組みであると自負しています。

主管者会議への参加で私たちは自らの視野を広げ、またディスカッションできる他事業部の仲間を得ることができました。グループ内で私たちが力を合わせることは、新しいタグラインであるConnect with Innovationにもつながると思っています。



SEWS-STC* 副総経理 恵江明

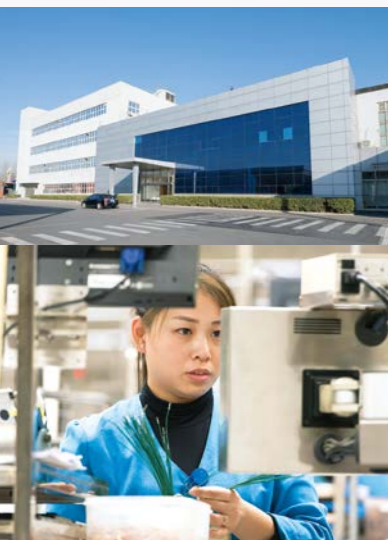
ますます重要性が高まるCSR調達から
中華圏のCSR活動を
活性化させていきます

上海で中国全土の自動車メーカーへハーネスを販売する会社にて、中国の自動車メーカーなどでの勤務を経て2017年4月、入社しました。2018年3月から幹部育成研修に参加し、その後半に組み込まれたアクションラーニングに取り組みました。当初テーマはシェアードサービスでしたが、メンバーで話し合い最近中華圏での取り組みの必要性が増しつつあるCSRをテーマにしようとする自主的に発案し、テーマを変更しました。その背景には、欧米系自動車メーカーから増えてきたサプライヤーへのCSR調達の確認事項があります。今後、CSRに関するお客さまの確認は

ますます重要性を増してくるものと考え、日本本社だけではなく、中華圏としてもCSRを推進していく必要があると考えたのです。

メンバー6名が集まる月に1度の会議のほか電話会議、SNSなども活用して検討を重ねました。CSRの重要性を、初めて聞く人にもいかに理解してもらおうか。本職である営業活動の合間を縫いながら、実践できるテーマに思いを巡らせるのは楽しく、やりがいを感じました。

主管者会議には多数の現地社員も参加しており、その育成を大切に考える当社グループの考えを知ることができます。住友事業精神を基盤にグループ内部でも取り組むことで22VISIONは達成できるものと考えています。



TJWS TIANJIN JIN ZHU WIRING SYSTEMS Co.,Ltd.

中華圏における幹部人材育成の効果に
確かな手ごたえを感じています

TJWS 仁木 敏彦 総経理



TJWSは住友電工グループが中国国営企業である(旧)天津汽車工業有限公司との合併で1994年に設立した、中国における当社グループ初の現地自動車会社向けワイヤーハーネス製造・販売会社です。中国では人手不足といわれていますが、TJWSでは、新規採用者の導入教育に力を入れ、即戦力化と離職防止を図っています。また要望のあった地域の学校と連携して学生に教育の機会を提供してまいります。2017年度は住友電工グループ内でGEC賞*を受賞、住友電装グループとしてもグループ会社業績表

彰第1位となりました。上記活動の成果もあり、中国の販路拡大、適正価格の追求による利益率改善などにより、グループ会社の経営立て直しに努めたことが評価されたと思います。

TJWS現地社員トップである何副総経理は、現在、他のグループ会社の総経理も兼務しており、グローバル・リーダーシップ開発プログラムの修了生でもありました。そこで学んだことを職場で実践しています。TJWSの上層部は副総経理不在時でもうまく機能しており、これは幹部人材育成の成果が上がって来た証左ではないかと思っています。これからも中華圏における人材育成に尽力していきます。



「第4回 住友電工グループ 中華圏主管者会議」を終えて

住友事業精神と
住友電工グループ経営理念の
共有化でグループシナジーの
強化を図っていきます

「第4回住友電工グループ中華圏主管者会議」においてエリアコミッティ活動報告やアクションラーニング提言を聞くことができ、人材育成の根幹に「住友事業精神」と「住友電工グループ経営理念」を据え、取り組むことの重要性に、あらためて気づくことができました。

今回の会議には、中華圏のGG幹部ほか各社幹部が多数集まり、個々の会社の枠を超えてグループ全体の視点から熱心な議論が交わされたことを嬉しく思いました。特にアクションラーニングのテーマの一つ「住友事業精神浸透について」では、参加者自らが住友事業精神の重要性を強く認識し、当社グループの社員全員への共有の必要性を強く訴えたことには、大変感激しました。

当社グループが今後もグローバルに事業活動を拡大、成長・発展を遂げるためには、人材育成は必要不可欠な取り組みです。その中でも「住友事業精神」は、私たちの「ありたい姿」や「方向性」を示すもので、その理念共有は、私たちが社会的役割を再認識し、社会との関わり方を学ぶ重要な取り組みだと思っています。今回参加された中華圏幹部の皆さんは、住友電工グループ経営理念を深く理解し、心から共感する方々であり、当社グループを支え、リードする人材としての大きな力を感じました。

今後も人材開発部として、「住友事業精神」と「住友電工グループ経営理念」を人材育成の中心において、広くグローバルな人材育成に取り組んでいきたいと思っています。



人材開発部長 関陽一

用語解説 *SHMS:住友電工硬質合金貿易(上海)有限公司の略 *SEPH:Sumitomo Electric Interconnect Products (Hong Kong), Ltd.の略 *SEWS-STC:住友電装商貿(上海)有限公司の略

*GEC賞 Glorious Excellent Company賞の略。業績・安全・品質等で特に優れた当社グループ会社を表彰(年1回)